

所沢市民放射線測定室「とこらぼ」ニュースレター2019年12月

発行:とこらぼ運営委員会

メールアドレス tokolabo2013@gmail.com ホームページ <http://children-foundation-tjimdo.com/>

Facebook <http://www.facebook.com/tokorozwahousyasensokuteijo>



いつも「とこらぼ」にご支援いただきありがとうございます。原発関連のニュースを見るたびに、数字の解釈や、見解の真偽に悩ましい思いがめぐります。一つ確かなことは、命が第一優先で暮らせる社会を創りたいということ。そして、不慮の事故が起きた場合でも、可能な限りの対応とともに、より良い未来につながる教訓にしたいということ。皆さんはいかがでしょうか？とこらぼの活動が、そんな未来を築く土台となったら嬉しいです。1月に7周年を迎えます。今後もお力添え、よろしくお願いいたします。



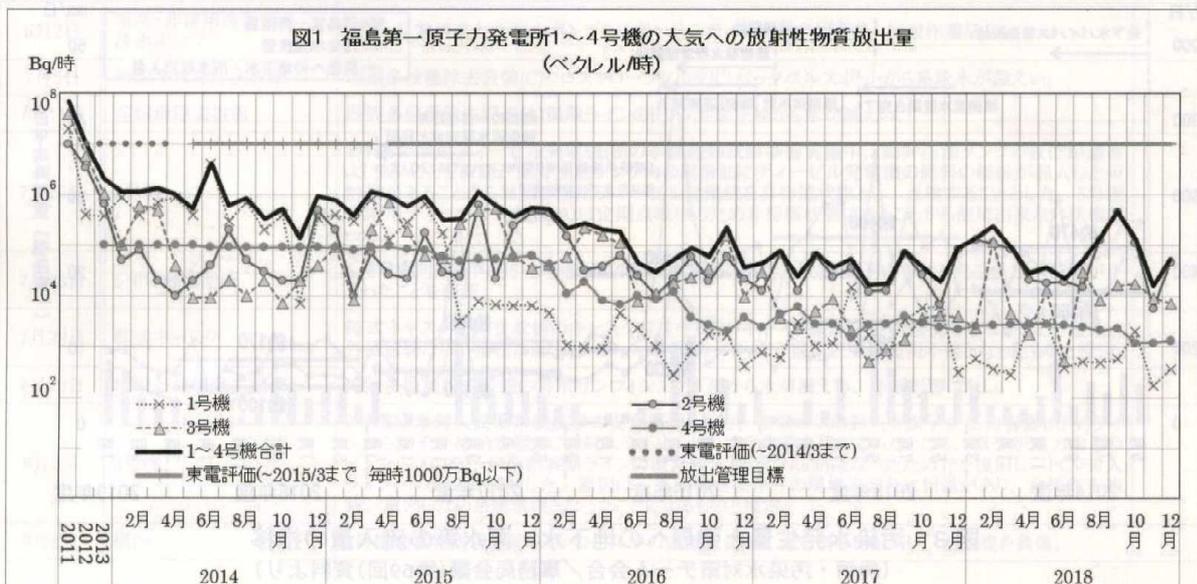
放射線測定士のつぶやき

今も続く放射性物質放出 ～福島第一原発 放射性物質の放出量が前年比2倍に～

NHKでは、東京電力の公表資料を基に計算したところ、いずれも推計で、去年(2018年)1月までの1年間の放出量は4億7100万ベクレルほどだったのに対し、今年(2019年)1月までの1年間の放出量は9億3300万ベクレルほどに上り、2倍近くになっていることがわかりました。(グラフ参照)

これについて東京電力は、1号機のがれきの撤去作業や、2号機の原子炉建屋の放射線量を測る調査にともなう作業での際、放射性物質を含むちりが舞ったからではないかとしています。

東京電力は8年前の原発事故のあと、1号機から4号機の原子炉建屋から放出されている放射性物質の量について現在は「対策を講じているので大幅に減ってきている」と説明しています。(NHK WEB 2019年3月8日より)



(出典:原子力資料情報室)

グラフをみると、2017年では1時間当たりの放射性物質の放出量は1万～10万Bqです。1時間分の放出量を ^{137}Cs の塊にしてみると、直径5ミクロン位です。(1ミクロンは1/1000mm。)目に見える埃の直径が100ミクロン位であることを考えると、放射性物質の小ささを想像していただけたらと思います。目に見えないほど小さい放射性物質は、細かなちりに付着して風で遠くまで運ばれていることでしょう。黄砂もはるか中国大陸から日本まで飛んできていることを思い起こしてください。

事故後8年9ヶ月、未だに福島第一原発からの放射性物質放出が続いています。チェルノブイリでは事故を起こした原子炉をシェルターで覆い、放射性物質の飛散を防いでいます。ところが福島第一原発では、本来なら閉じ込めておかなければならない放射性物質を環境中に放出し続けています。

公開測定の現場から

今回は、飯能で捕れた鹿肉の測定について触れたいと思います。以前からジビエブームを心配して一度は測定してみたいと意見が上がっていました。何とか入手できる方法はないかと機会をうかがっていたところ、今回、提供協力者出現のお陰で測定にこぎつけました。

まず、いつもの事ですが検体処理の方法に悩みました。測定中に肉が発酵膨張して液漏れを起こし、測定器内部を汚染しかねないので、生肉をそのまま測定することは避けたいところです。蒸す、焼く、燻製、乾燥などの中から最も簡易な蒸すという方法を取りました。約1.8kgの解凍したブロック肉をスライスするところはナカナカ豪快でした。半解凍状態だったので切れ味も丁度良く、獣臭にさほど悩まされることなく処理できました。

蒸し器で蒸すこと30分位、肉の量が多くて思うように全部に火が通りません。そこで肉汁が沢山でてきたので残りの肉も加えて直接鍋に入れて煮ることにしました。そうしたところすぐに火が通り次の作業である常温に冷ましてから肉汁も一緒に測定器に詰める事ができました。これでやっと測定スタートです。ここまでの処理をTさんが慣れた手つきでやってくれました。

結果は「2時間の測定で ^{137}Cs を4.47Bq/kg検出しピークもとらえました。」と一言で言ってしまうとあつけないのですが、この結果を得るまでには、沢山の手間暇と協力があつてのことなのです。

結果の数値については、映画「福島/生きものの記録」に登場する野生動物の筋肉からは何千とか何万ベクレルの数値が検出されていたので、それに比べれば比較にならないほどの数値でした。しかし僅かとはいえ検出され、このような結果をお届けできました。

11月16日 どんぐり村まつりに出展しました

お祭り会場となった「どんぐり村」は日本最大級と言われている三富の平地林の中でした。生活クラブ生協主催のこのお祭りは、沢山の出店と来場者でにぎわいました。

とらぼではパネル展示と空間線量の実測、中央ステージで紙芝居の上演を行いました。

パネルの制作にあたっては、「あれほどの原発事故があつたにもかかわらず急速に事故の風化が進む中で、事故の教訓が生かされようとしていないよね」「それどころか事故による健康被害はなかった」「福島の放射線量は他と変わらない位になったので日常の暮らしが戻りつつある」「心配している人は知識不足からくる思い込みや誤解だ、なんて復興庁のパンフに書かれているよ」そこで事故の教訓からいかに学ぶか、放射線被ばくによる健康リスクの理解をしていく機会にしてもらえたらという思いで次の6つにまとめました。



- ①放射線のホント(復興庁発行)ってホント?
- ②日本の原子力発電所の現状
- ③チェルノブイリと日本の避難指示区域の違い
- ④もし、原子力事故が起きたらどうしたら良いの?
- ⑤最近「とらぼ」が測定した食品と土壌で検出されたもの
- ⑥福島第一原発からの 放射性物質放出量(月毎の年次推移)

特にこの⑤⑥に関心を持って質問があり、「これからも情報が欲しい」「講演会や映画会にも参加したい」という方とも繋がりました。

紙芝居は次の2つを上演しました。「ちいさなせかいのおはなし」これはどうして放射線に気を付けなければならないのか、放射線と細胞やDNAの関係を分かり易くお話してくれます。「ちっちゃいこえ」これは丸木夫妻の「原爆の囀」をもとに米国生まれの詩人アーサー・ビナード脚本によるものです。原爆と類似している原発を重ね合わせ3.11の原発事故後7年の歳月を経て、いのちの源である「細胞」に耳をすます物語となっています。

紙芝居の読み手にお願いしたのは、「会員からの声」に今回登場されている横山悦子さんです。紙芝居の前に手袋人形や手遊び歌が始まると、中央ステージ前には沢山の親子連れが集まり出し、そのまま紙芝居を鑑賞してもらえました。

【とらぼ利用者の声】

横山悦子さんからの投稿をご紹介します。

狭山市在住、元小学校教師。現在は民生委員をはじめ地域貢献されています。

今年6月に我が家の前(狭山市稲荷山公園北斜面)のワラビを「とらぼ」で測定して頂いたところ、測定値は下限値未満だったので、来年からも一応は安心してワラビ採りができるとホッとしています。

私の実家は、福島第一原発から23キロに位置する川内村にあり、映画「福島生き物の記録」の中にも 登場しました。

「とらぼ」でしか観られない貴重な記録映画の上映会のお手伝いや、小豆川先生の講演に参加させて頂きながら放射能についての知識を得る事が出来てとても勉強になり、感謝しています。

2011年3月の原発事故で川内村の弟家族や親戚、友人など、多くの人々の人生が一変しました。9月19日の東電に対する無罪判決は到底認める事が出来ません。

まだまだ収束しない原発事故。そして目に見えない放射線。知れば知るほど本当に恐ろしいと思います。これからも微力ですが「とらぼ」の活動を応援していきたいと思っています。



「とらぼ」では以下のような業務をお手伝いしてくれる方を随時募集しています

測定スタッフ//測定補助・受付手伝い//公園土壌調査プロジェクトスタッフ//公開測定メンバー
ご自宅やご自宅周辺でできる作業もありますので、ご興味のある方はぜひお問い合わせください。

メール: tokolabo2013@gmail.com 電話: 080-6257-2306



「とらぼ」メーリングリストに登録しませんか？

公開測定のご案内や結果速報、イベント情報を随時発信しています。

登録ご希望の方は、上記メールアドレスに「メーリングリスト登録希望」と書いてお送りください。